



弦楽器におけるフィンガリングの定義と共に学習する トライアドエクササイズ「応用実践編」

この度は「トライアドエクササイズ 実践応用編」をご購入頂きまして誠にありがとうございます。

本書では前作となる「トライアドエクササイズ 基礎力強化編」の続編となる構成となっており、「トライアドエクササイズ 基礎力強化編」にて学習いただいたトライアドをさらに発展させるための学習法を掲載しております。

本書の特徴

本書の全てのエクササイズにおいてその練習のポイントや構築法などを掲載しております。

本書は演奏練習発展のノウハウを中心に掲載することで読者の皆さま自身でエクササイズを開発していただき、更なる学習をねらいとしております。

また演出のためのノウハウなども多く掲載しておりますので是非皆さまの音楽表現にご活用いただければと思います。

解説動画を見る

付属する解説演奏の動画ファイルはYouTubeにて限定的に公開する形となっております。
そのため解説演奏の動画は無断でのシェアを禁止とさせていただきます。
シェアなどが発覚した際は動画ファイルの公開を取りやめさせていただきますのでご了承ください。
ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

Index

コード進行に対してのトライアド

I - IV - V エクササイズ

メジャートライアドにおける全ての転回形練習

全ての転回形練習 ポジション図

マイナートライアドにおける全ての転回形練習

転回形のダブリ

リズムを工夫してのトライアド

メトリック・モジュレーション

8分音符を利用したメトリックモジュレーション

16分音符を利用したメトリックモジュレーション

ポリリズム

2拍3連

2拍6連

2拍9連

代理和声を利用したトライアド練習

代理コードとアッパーストラクチャートライアド

代理コードの考え方

代理和声を利用したトライアド練習

I メジャー × III マイナー

I メジャー × V メジャー

I メジャー × VII マイナー

I マイナー × $\flat$ III メジャー

I マイナー × V マイナー

I マイナー × $\flat$ VII メジャー

メジャーダイアトニックコードのトライアド

メジャーダイアトニックコードトライアドエクササイズ

ナチュラルマイナーダイアトニックコード

ナチュラルマイナーダイアトニックコードトライアドエクササイズ

ハーモニックマイナーダイアトニックコード

ハーモニックマイナーダイアトニックコードトライアドエクササイズ

メロディックマイナーダイアトニックコード

メロディックマイナーダイアトニックコードトライアドエクササイズ

エクササイズの工夫

1つ飛ばしでの進行

逆行

4度サイクル

SUSトライアドの活用

代理和声によるオープントライアドの練習

オープントライアドエクササイズ

アッパーストラクチャートライアドエクササイズ

コード進行に対してのトライアド

I - IV - Vエクササイズ

「トライアドエクササイズ 基礎力強化編」にて学習していただいたトライアドに対してケーデンスを導入して練習してみましょう。

トライアドの練習の練習には今回ご紹介する I - IV - Vのシンプルなケーデンスを当てはめた練習が最も効果的だと考えています。

ここでは例としてAメジャートライアドに対しての I - IV - Vエクササイズによる練習例をご紹介します。

I - IV - Vエクササイズ (メジャートライアドにおける全ての転回形練習)

I : Aメジャートライアド 基本形 Rフォーム

基本形
A

IV : Dメジャートライアド 第二転回形 Rフォーム

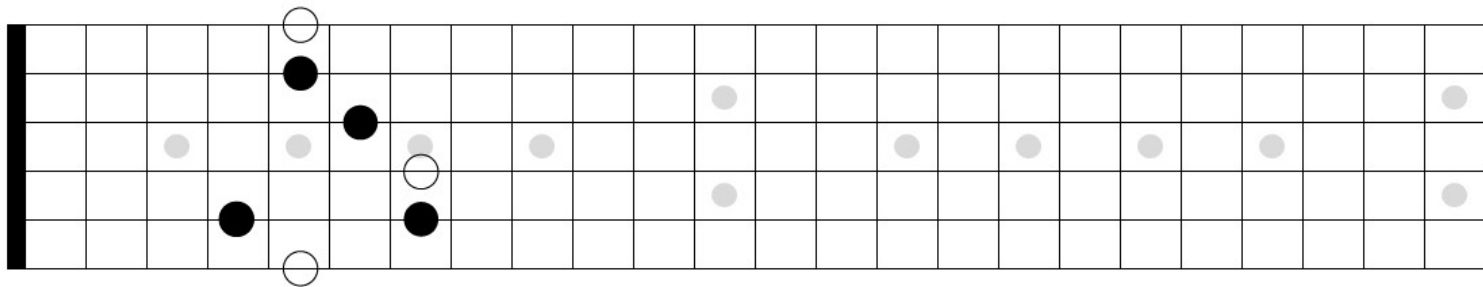
第二転回形
D/A

V : Eメジャートライアド 第一転回形 Rフォーム

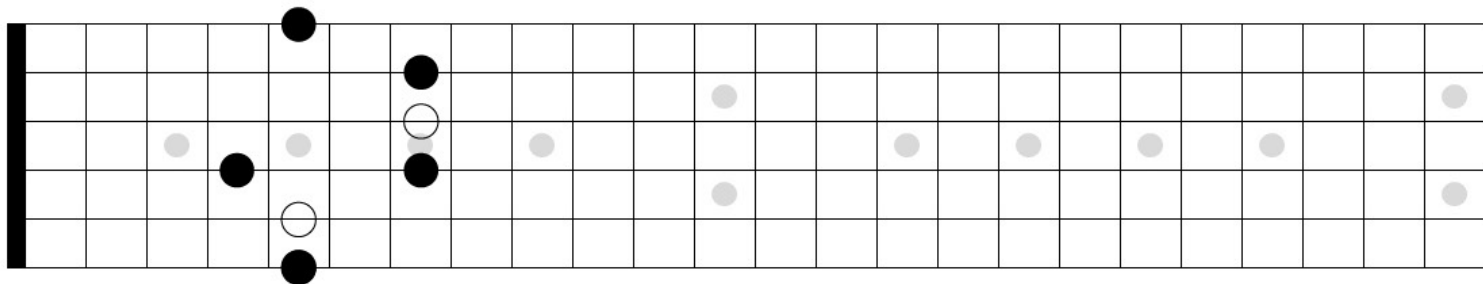
第一転回形
E/G#

I - IV - V エクササイズ の練習例 (全ての転回形練習 ポジション図)

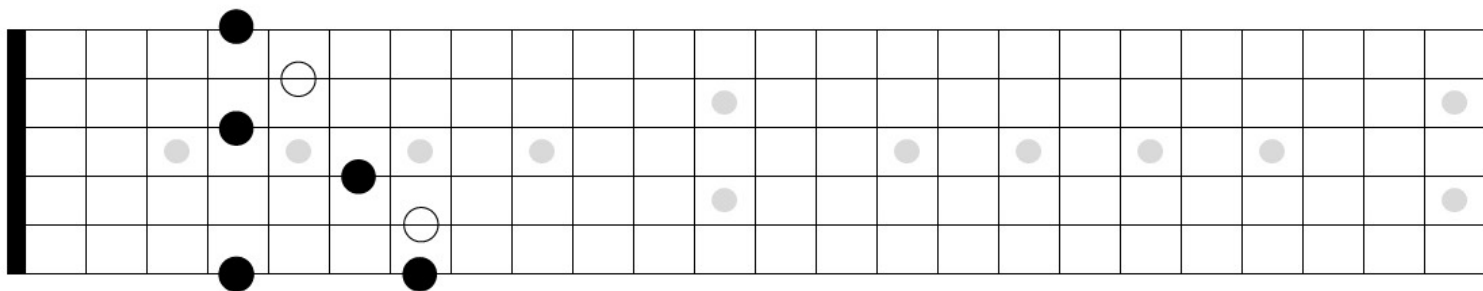
I : Aメジャートライアド 基本形 Rフォーム



IV : Dメジャートライアド 第二転回形 Rフォーム



V : Eメジャートライアド 第一転回形 Rフォーム



この練習により I となるAメジャーのルートから、AメジャーKeyのIVとなるDメジャーでは第二転回形となる5度からのトライアド、VとなるEメジャーでは第一転回形となる3度からのトライアド展開となっています。

ポジションプレイを意識して練習を展開することで、様々な転回系のトライアドの練習に取り組むことが可能となります。

リズムを工夫してのトライアド

リズムを工夫する

ここからはリズムの単位を変えてトライアドエクササイズを運用してみましょう。

特にポリリズムを利用したトライアドエクササイズの練習は、タイムキープの練習やリズム面での表現に対してのスキルアップを狙うことができます。

トライアドは3つの音の単位で推移していきます。

その為3連符でのエクササイズ構築により拍子に沿って3の音型(トライアド)を運用することができます。ここではあえて拍に沿わない形でトライアドを練習していくノウハウをご紹介しますと思います。

メトリック・モジュレーション

本書でのメトリック・モジュレーションは、同じテンポにてアクセントを操作しビートの雰囲気や拍子に変化を加える技法を指しています。

ここからメトリック・モジュレーションのアイデアを利用し拍子に変化を与えることによるトライアドの練習法を考察してまいりたいと思います。

練習のポイント

リズムに関する練習の際は「1・2・3・4」とカウントを口にしながら練習するようにするとより効率の良い練習構築が可能となります。

8分音符を利用したメトリックモジュレーション

次のページからは3連符にてスケッチされたトライアドエクササイズを8分音符で運用していく練習法をご紹介します。

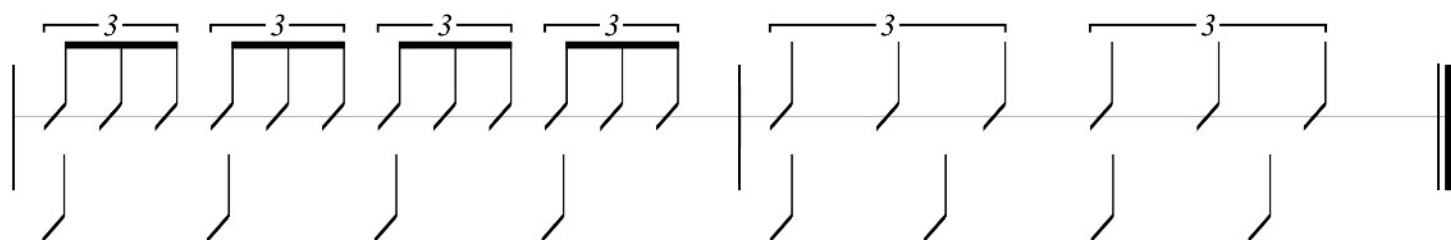
ポリリズム

ポリリズムとは基軸となるビートに対して異なるビートを同時並行で演奏する手法を指します。
トライアドエクササイズは基本的に3連符でスケッチされていましたが、この3連符を1拍3連で演奏するのではなく2拍で3連符を演奏する事でポリリズムを発生させることが可能となります。

2拍3連でのアプローチ

2拍3連でのアプローチは3連符のトライアドエクササイズを2倍に引き伸ばしたものと捉えることが可能です。

1拍3連と2拍3連のリズムに対する4分音符の位置関係



代理和声を利用したトライアド練習

代理コードアプローチ

メジャーをマイナーなどに、マイナーをメジャーなどに変換をおこす代理コードのアプローチは色彩豊かなアドリブソロを作り上げる上でも特に大切な概念となります。

主な目的としてはテンションの演出/抽出のために利用することが多い印象です。

また、コード進行を追いかけるような演奏のシーンでは代理コードを*コードの引力の強さに沿って配列するようにします。

和声の調性引力について

原本となるコードに対して、代理的なコードを派生させる際に引力といった言葉でご説明しております。これはあくまで私個人の解釈となりますが、代理コードとアップストラクチャートトライアドは別の解釈となります。

その線引きとなるのが「和声音の保有率に基づく調性引力」の概念です。

引力の強さは原本となるトライアドに対しての和声音の保有率で決まります。

調性引力の関係と代理コード派生の図



原本となるトライアド(ここではCメジャートライアド)に対する和声音の比率は第一代理コードのEマイナーが66%となり、第二代理和声となるGメジャーが33%となります。

原本となる和声音の保有率が低下するほど調性引力は弱まると考えていきます。

代理コードによるフレージング例

和声代理技法によるフレージングアイデア

Chord labels: Dm7, Am7(Vm7), Fmaj7(b III maj7), H, Dm7 of b7th, G7.

Notes: Dm7 of b7th, G7 of 3rd.

和声代理技法によるフレージングアイデア

アッパーストラクチャートライアドによるフレージング例

Chord labels: Cm7, Cm, Bb, Ebmaj7, Cm9.

アッパーストラクチャートライアドによるフレージングアイデア

ここからは代理和声を利用して様々なタイプのトライアドを扱うエクササイズをご紹介します。

まずはメジャートライアドとマイナートライアドを複合する練習として、メジャー7コードとマイナー7thコードの代理和声にあたるトライアドをピックアップしエクササイズを構築していきます。

代理和声を利用したトライアド練習

I メジャー × III マイナー

メジャートライアド 基本形 Rフォーム with Ⅲマイナー

基本形
A C#m/G#(Ⅲm)

TAB

メジャートライアド 基本形 Lフォーム with Ⅲマイナー

基本形
A C#m/G#(Ⅲm)

TAB

基本和声の3rd音をルートとする代理トライアド

演奏の基本和声となるトライアドに対する3rd音をルートとするトライアドは原本となるに対して3rd、5th、7thのクオリティーを説明することになります。

7thコードをトライアドで表現するには対象とする和音の3rdをルートとするトライアドを演奏すると覚えるようにしましょう。

3度代理トライアドによる和音の拡張

The image displays a musical staff with eight triads, each with a chord name above and a Roman numeral notation below. The triads are as follows:

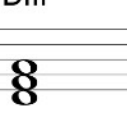
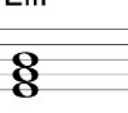
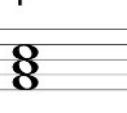
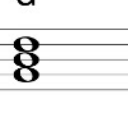
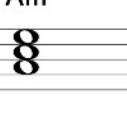
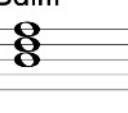
Chord Name	Triad	Original Chord	Substitute Triad
Cmaj7	C-E-G	Cmaj7	I Δ 7
Em	E-G-B	Em	III _m
C7	C-E-G-B	C7	I7
Edim	E-G-B	Edim	III _{dim}
Cm7	C-E-G-B	Cm7	I _m 7
E $\flat$	E-G-B	E $\flat$	$\flat$ III Δ
Cm7 $\flat$ 5	C-E-G-B $\flat$	Cm7 $\flat$ 5	I _m 7 $\flat$ 5
E $\flat$ m	E-G-B	E $\flat$ m	$\flat$ III _m

メジャーダイアトニックコード

メジャーダイアトニックコードのトライアド

続いてメジャースケールのダイアトニックコードにあたるトライアドを使用しメジャートライアド、マイナートライアドと新たにディミニッシュトライアドを複合し練習するためのエクササイズにトライしましょう。

Cメジャースケールダイアトニックコード

C	Dm	Em	F	G	Am	Bdim
						
I Δ	II _m	III _m	IV Δ	V Δ	VI _m	VII _{dim}
T	SD	T	SD	D	T	D

代理コードの派生について

ダイアトニックコードはダイアトニックスケールを1音飛ばして積み上げることにより構成されるため、類似した音構成となるコードが発生します。

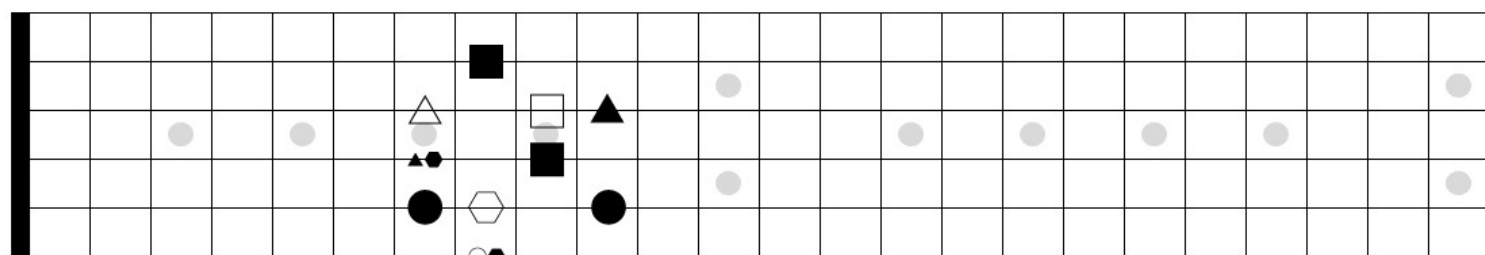
その過程から、基本的なケーデンスを構成する為のトニック(T)・サブドミナント(SD)・ドミナント(D)の機能も和音の響きの類似性にて決定されます。

メジャーダイアトニックコード トライアドエクササイズ

メジャーダイアトニックトライアド Rフォーム

C Dm/A Em/B F/C

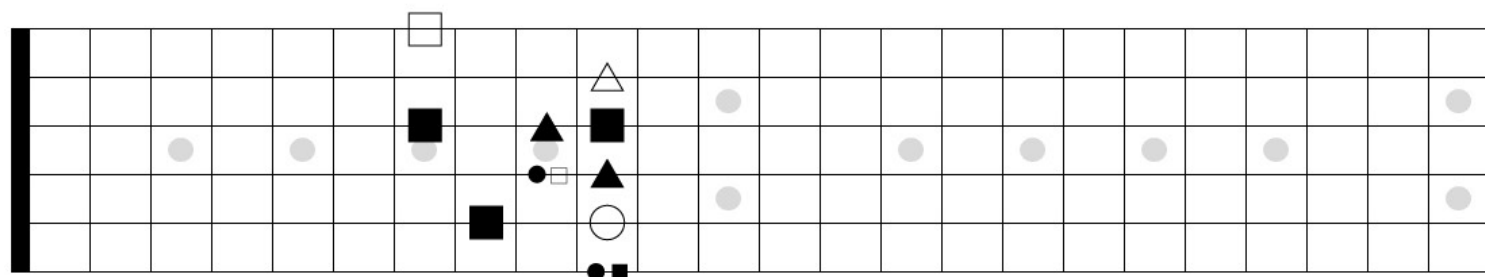
TAB



○ = C、△ = Dm、□ = Em、◇ = F、白色は各トライアドのルート音となります

G/D Am/C Bdim/D Bdim/D

TAB



○ = G、△ = Am、□ = Bdim、白色は各トライアドのルート音となります

SUSトライアドの活用

SUSトライアドの実用的な練習方法

前著「トライアドエクササイズ 基礎力強化編」にてご紹介してまいりました「SUSトライアド」の扱い方と効率的な練習法についてここでは解説します。

ペントニックスケールの演出として

SUSトライアドにとって最も活用的なのはペントニックスケールでの活用です。

*詳しくは前書「トライアドエクササイズ 基礎力強化編」をご参照ください

SUSトライアドエクササイズ

ここからはより実用的なSUSトライアドのエクササイズとして、2種類のトライアドを利用したSUSトライアドエクササイズをご紹介します。

このエクササイズをこなすことにより、新たなペントニックスケール表現の開発にもつながるでしょう。

アップーストラクチャー トライアドエクササイズ

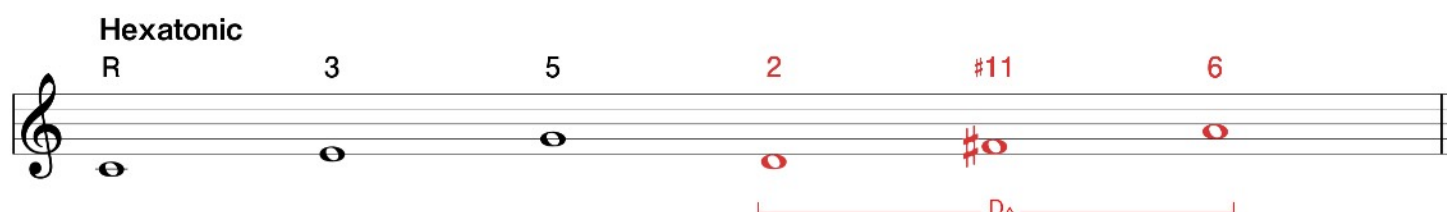
アッパーストラクチャートライアドの考察

ダイアトニックコードのようなコードの関連性が薄い、アッパーストラクチャートライアドの概念を通じてトライアドエクササイズを練習することでトライアドのムーヴメントをより深く学習することができます。

トライアドの組み合わせによる表現の可能性はごまんと考え出すことが可能ですが、ここではメジャートライアドに対してメジャートライアドを乗せていく形で3種類のアッパーストラクチャートライアドの形態を学習していただきます。

I △ × II △ (リディアンベースのアイデア)

Cメジャートライアド × Dメジャートライアドによる6音スケール (Hexatonic Scale)



Cメジャートライアド × Dメジャートライアド × 7度音による7音スケール (Heptatonic Scale)



Cメジャートライアド × Dメジャートライアド × 7度音による7音スケール (Heptatonic Scale)



上記のようにIIメジャートライアドを乗せることにより9th、#11th、13thの表現が可能となります。